

磐城青年新報

新聞定價 部金五錢 行四十錢 場所指定十錢 發行所 磐城青年新報社 四倉町新町五十一番地 編輯部 磐城青年新報社 字狐島石城郡八幡町大酒井與市

發刊の辭

私共は社會現象の一切に亘つて批判し研究せんが爲めに昭和二年七月石城青年同盟會を設立したのであるが今又その有力なる機關として磐城青年新報の發刊を見るに至りたることを會員諸君と共に慶賀するところである。熱々鑑るに、現代の我が日本は、内外共に一大難局に達し、思想界は勿論、政界も經濟界も非常なる亂調を續け、天下の志士、仁人をして國難來を絶叫せしつゝあるのである。私共は斯かる國難に襲はれつゝある日本の現狀を拱手傍觀する譯には行かぬ、然し私共には、國難に襲はれつゝある祖國を救済すべく、其の第一線に立つて充分に活躍し得る地位も、權限も、將たまたその機會すらも與へられてはゐない、たゞ、來るべき時代に臨むに充分の準備の必要であること、の觀念を鼓吹されてゐるといふに過ぎない。事實それが現在の私共にとつては、却つて國家への最大奉仕かも知れぬ。否、斯くあるべきであると思ふ、そこで私共は來るべき時代の第一線に立つべく、又立たねばならぬことを充分に豫期してゐる。それと共に充分の準備の必要であることも考へてゐる。故に私共はこの準備行為として、如何なる方針によれば我が政界を、我が思想界を、我が經濟界を、救済することが出來得るか先輩の指導を仰ぎつゝ、眞面目に批判し研究をせねばならぬといふ究極に到達したのである、この昂概は畢竟、私共の偽なき眞意で、又一面愛國、憂國の内の情熱が遂に私共を驅つて斯かる準備的行為を餘儀なくせしめたのである。勿論、私共は此に於て、私共の立場上一應誓盟せねばならぬこと、は、私共は營利的意味から私共の研究を持續するものではない。又實名、僻見、情實其の他一切の不純動機から此の機關紙の刊行を企劃したのではな

就任の挨拶

草野支部長 坂本惣次郎

古キヲ知り同時ニ新ラシキヲ知レトハ我會長木村氏ノ言ナリ仰々福島縣ハ古來奥羽文明ノ咽喉淵源地トシテ有名デアリ勿來白河關趾ノ存在スルニ徴シテモ其ノ歴史的確證ノ大地方デアル事ガ解ル則チ建國爾來數千年ノ永キ間全奥羽ノ中最モ文物ガ發達シ殊ニ近代六十年ノ過程ニアリテハ本邦ノ政治乃至政黨ノ發達上極要ノ地位ヲ占ム、然ルニ現況ハ如何、縣治ハ亂レ地

磐城青年同盟會 第四回總會

玉山湯ノ澤で開催 會員多數出席頗る盛會

磐城青年同盟會第四回總會は去る十月三日大野村玉山湯ノ澤に於て開催出席會員百餘名定刻午前十時門馬副會長開會の辭を述べ議事に移り會務、會計、機關紙政

新役員

- 會長は木村氏
遊說部長 神谷市郎
本部幹事 上澤幸吉、鈴木幸次郎、熊田萬藏、豊田美孝、根本忠中、西山藤助、鈴木博、片寄市重、鯨岡左近、早川祐次、新妻幸太郎、鈴木喜三平、新妻保、薄葉正憲、猪狩高喜、岡田鶴治、金成雅義、鈴木恭輔、高萩監男、會川工平、明智治右衛門、中野次郎

的ニ大成スルニハ廣ク同志ヲ糾合シ團結ノ力ヲ以テ之レニ當ラザレバ俄カニ之レヲ實行達成スルコト能ハザルベシ、故ニ連絡、統一、指導機關デア

國丸、松崎清三郎、高崎直衛、大谷武平、大谷直愛川長平
大野支部幹事 小野秀雄、木村忠一、吉田英夫、吉田英武、會田榮一、高木安之助、山野邊一意、草野新、會田宗一、瀨谷武、草野利衛、會田德重、長谷川忠平、大谷博、藺部清太郎
草野支部幹事 櫻村清作、佐藤芳太郎、大平清藏、新妻宗太、篠崎秋穂、新妻保、片寄義男、渡邊高一、鈴木吉次郎、猪狩重徳
神谷支部幹事 鈴木秀男、佐藤一雄、佐藤正一、水野久一、國井貢、鷹崎才次郎、木村十

社告
本紙第一號は堅實を主眼としてゐます故二頁なるも來春新年號から漸次紙面の擴張を行ひます

三派巴狀戰を畫く

石城政界の動

改造論の台頭……政友會
膨張に悩める……民政黨
統卒者のない……無産黨

兎角ダレ氣味であつた石城郡地方政界も、縣會の開會、國會開會期日の切迫に依つて期節的の活氣と動きを見せて來た、衰頹内紛、暗闘、進出等々其の動く形の變る處に、面白味があり同時に時の推移と、時代思潮の反映とがうかゞわれる、冬眠假死の状態を思はれる石城政友會、膨張の悲哀を滿喫し分裂の道程にある石城民政黨部會、既成政黨の牙城に勇敢な進出を試みんとしてゐる無産黨、此の三つの政黨が、政治シーズンを機して巴狀戦を畫く。

石城政友會改造論

青年の登用を説く

石城政友會の現在が昔日の忘却した結果である、最近切に叫ばれる改造即行は青年の登用を有してゐるとは、見れば北方部に政友會改造論が年々加緊し青年も自由行動の事が出て來ない、各町村に台頭して來た所以のものは、得る政友會を造れと言ふ於ける町村會議員選舉の結即ちそれで熱と力を充分に事であり、政友會が持つ一果等は明かに金城蕩地を誇示し得る青年を登用し内に大缺陷の補足的運動であるつた石城政友會が衰頹してある其の把持力を完全に發何の程度迄政友會が此の改

民政部會の危機

醜くき同志間の暗闘

勢力は石城郡地方に於ける縣參事會員の爭奪から二大果は若松美三氏が美事榮譽を創立すると同時に大衆黨の勢力とは異なる事は出來な村會議員の改選に於ける選奮闘をなしたのである。此の絶大なる把持力を有す正に膨張の悲哀を滿喫して地にまみれ、敗慘者の立場象を示すに至つたか？若松、野崎兩派の對立的闘が崇つて二大分裂を招來す事の出來る青年を養ふ事と排撃が繰り返され其の結豫測する處であつて、即ち

部會内には此の兩者の勢力分裂を見るであらうと豫測争ひを調停し得る人物がなされる事になるのである、いからである、顧問五長老は縣參推薦で大味増をつけ張つて來た石城民政黨は勢其の体度は黨員多數の反感を買ひ部會にとつてピカ一を存任である代議士比佐昌平氏は此の問題は最初から逃避的態度を取つてゐるの今日若松、野崎兩派の對抗が當つて此の兩者を調停妥協せしむる登場人物に缺けてゐる事となり、やがて二大

常磐の無産政黨

指導者無きに悩む

我が國に於ける無産黨中歴ない事が其の重大なる原因倒的勢力を示してゐる社會的の労働者を中心として磐城支部を設置した、社民黨を支持する労働團體は例の廣瀨貞君等が中堅となつてゐる右翼派の常磐炭礦坑夫組内であつて、それに民政黨し現在の社民黨を形成しての程である、唯社民黨が今後条件が無産黨の進出に有利である、石城郡地方は凡てのす而も中央における指導者

青年大衆運動に就て

磐城青年同盟會幹事長 武藤 豊

我が磐城青年同盟會が磐城の天地に雄々しくも新日本建設の理想を標榜して我々が常に高唱する青年政治實現の爲に實際運動に進出し現の爲に實際運動に進出し既に三ヶ年餘になる、が其の間吾々が青年大衆運動に就て、如何なる経験を嘗めきたつたが、而して其の経験に依つて如何なることを考へさせられたか、と云ふ事は今後吾々が進むべき運動にとつて重大なる價値を有するものと思ふ、私は之等の諸事に就て少しばかりの感想を述べてみたいと思ふ

時事寸評

中央政界の疑獄沙汰、批判を捨てた大衆は、疑獄の進展に冷笑を投げる。兎作、滅收、天災、被害農民は困窮のどん底に陥ちた、誰か起つて之れを救はざる。石城民政黨の御家騒動、醜惡なる同志間の暗闘、矢張野に置くべきものか、近秋の姿、いど淋しく、巷に冬の訪れ。